

心理臨床センターの開設にあたって

はじめに

この度同志社大学大学院心理学研究科臨床心理学コースの教育・研修施設として、継志館1階の奥まった場所に心理臨床センター（以下センター）が開設されました。継志館というとなじみのない方もいらっしゃるかと思いますが、所在地としては新町今出川下ルで、以前「レジーナ京都」があったところです。2009年度から同志社大学に心理学部ができ、それに伴って様々な研究・教育の領域を広げるための計画を立案、実施して参りましたが、今回このような臨床施設を設置することになりましたのは、「専門資格を取得し、高度な研究能力を兼ね備えた臨床心理専門家の養成を目的とした臨床心理学コースの開設を目指す」という計画に沿ったものです。心理学研究科心理学専攻の中で、従来からの大学院の前期課程を心理学コースとし、2011年4月から新たに臨床心理学コースを設けることになり、このコースの教育・研修施設としてセンターが設立さ

れた次第です。

同志社大学の心理学が、一貫して目指してきていることは、基礎と応用の橋渡しをするということです。社会貢献のできる心理学の素養を持った人物を育成することを教育目標として掲げてきております。センターの設置は、まさに基礎と応用をつなぐという考えに基づき、臨床心理学的な素養を持った社会に貢献できる人材を育成することに貢献できることになると思います。

センターはどのような人のために活動するのか

このセンターは2010年11月にすでにオープンしております。2011年4月の臨床心理学コースの学生の入学から研修施設としての本格的稼働を計画しております。

センターでは様々な心理的問題をもった人を援助することを目指しています。ストレスにまつわる心身の悩み、働く人の仕事上の問題や職場での人間関係の悩み、子どもの発達に関する

問題、保護者の子育てに関する悩み、教師や保護者の学校教育における問題、家族関係に関わる問題、高齢者自身の悩みやそれをケアする人の悩みなどの様々な問題に対応できるようにスタッフを揃え、また設備を充実させております。また言うまでもないことですが、来談される方のプライバシー保護を徹底させております。

この施設は広く学外の人々の心理的援助を目指すものであるために、そのサービスは有料となります。しかしその料金は決して高額なものではなく、通常の面接ですと1回50分2500円程度になります。

センターの施設紹介

このセンターの施設について簡単に紹介しますと、面接室、プレイルームとそれに隣接する観察室、待合室、カンファレンスルーム、事務室、スタッフ控室などを備えたものです。プレイルームといえますのは、まさに遊ぶための部屋ということになるのですが、このような部屋がありますのは子どもを対象としてプレイセラピーつまり遊ぶことを通して臨床心理学的援助を行うためです。このような子どもに対する援助方法がとれるのはまさにこのような施設があつてこそであると言えます。

継志館の所在地からみても来談者にとつてはアクセスが非常によいということもおわかりでしょう。地下鉄烏丸線の今出川駅に近いのですが、継志館は大学のキャンパスからは離れていて、しかもセンターの玄関は継志館の正面玄関とはまったく別の場所になっていますのでその出入りが他の来館者の目にとま

ることもありません。

またセンターを運営するスタッフについてですが、臨床心理士の資格を持つ心理学研究科の専任教員、カウンセラー、事務職員がその運営に当たるとともに、臨床心理コースを専修する大学院生が教員の指導のもとに来談者の援助にあたる予定です。

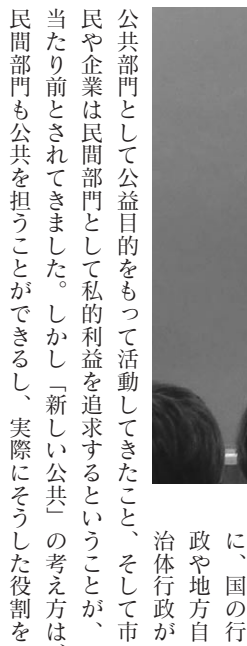
稿を終えるにあたって

この施設は大学院の教育・研修施設であるとともに、様々な問題や悩みを持った来談者一人ひとりを大切にし、それぞれの人の人生、生き方、生活環境にあつた心のサポートを提供する場所となるものです。

さらに言えば、校祖新島襄の言葉にある「人ひとりは大切なり」という理念を心理学の領域で実現するための一施設でありたいとスタッフ一同願っている施設でもあります。

多くの大学の先生方並びに職員の皆様のご理解とご協力を戴き、心理学研究科に臨床心理学コースを開くことが出来ますこと、また2010年11月から心理臨床センターをオープンできましたことを深く感謝致します。

「新しい公共」という言葉が意味するところは、1995年阪神淡路大震災直後にその救援に当たったボランティアの中から「私たちは行政とは違う別の公共だ」という自覚が語られたところにその淵源があるといわれます。これ以後の活発な市民の活動を目の当たりにして、野党の国会議員であつた鳩山前総理は、公共サービスの在り方に関する研究会を始められたそうです。そこでは、これまで、行政が独占してきた公共という考え方を、むしろ国民のものと市民のものとして考え直して行きた



DOSHISHA CLOSE UP

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部誕生

グローバル・コミュニケーション学部設置準備室長

学部長就任予定者

中村 久男

1 学部人材育成目標

2011年4月、同志社大学の13番目の学部として、グローバル・コミュニケーション学部が京田辺校地に開設されます。本学の国際主義の伝統を受け継ぎつつ、本学部は、同志社大学の三つの基本的教育理念のなかでも、とりわけ「国際主義」を現代に体现する人物の養成、すなわち現代世界のグローバル化の構造と動向に対する理解、および異文化に対する理解を基礎に、高度な外国語運用能力をもつコミュニケーションの担い手として、ビジネス関連の諸分野や国際政治・教育・文化交流等に関わる非営利事業の諸分野で、facilitator（推進・纏め役）、negotiator（交渉役）、administrator（管理・運営役）として活躍できる国際人の養成を目的としています。

本学部はグローバル・コミュニケーション学科のみの一学科制で、入学定員は150人、英語コース（80人）、中国語コース（40人）、日本語コース（30人、留学生対象）の3コースで構成されます。

2 五つのCとカリキュラムの特徴

カリキュラム編成にあたり、米国の21世紀に向けた外国語教

育方針（5C）を取り入れています。グローバル化が進む世界において自国文化のみならず異文化に対する理解を深め（Cultures）、獲得した情報を繋ぎ合わせ（Connections）、母語・自国文化と外国語・異文化を比較・相対化し（Comparisons）、習得を目指す外国語が用いられている社会に実際に加わり（Communities）、その外国語を用いてコミュニケーション（Communication）をとる。実践的外国語運用能力を基礎とする総合的なコミュニケーション能力を育むために、この五つのCを意識しつつ演習系科目と講義系科目をバランスよく配置してカリキュラムを構成しています。演習系科目では、3コースともそれぞれの言語の4技能、「話す、聞く、読む、書く」能力を確実かつ十全に強化するために、10〜15人程度の少人数制をとり、密度の高い、きめ細かな教育指導を行います。

英語コースと中国語コースでは語学研修と異文化体験を兼ねた1年間の「Study Abroad」（海外留学）が必須です。英語コースは2年次に英国・米国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの5カ国13大学のいずれかに留学して科目を履修します。中国語コースは2年次後半から3年次前半にかけて北京大学、復旦大学、ないしは台湾師範大学に留学しますが、本コー

ス是中国語を初めて学ぶ学生を主として対象としているため、語学研修に重きが置かれます。両コースとも研修先で取得した単位は、卒業単位として認定されますので、4年で卒業が可能です。日本語コースは、既に日本語をある程度学んでいる留学生を対象としており、4年間の留学によって、日本語運用能力を高度な次元へと高めるとともに、社会実習やインターンシップを通して日本に対する理解を深めます。いずれのコースも各言語の検定試験等での数値目標を掲げており、その到達度を公表いたします。

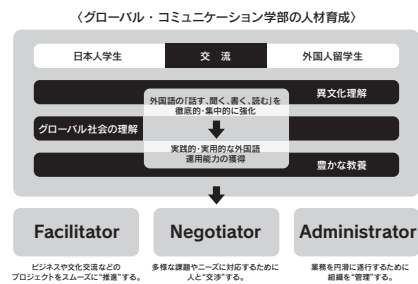
3 社会的ニーズに応える学部として

グローバル化において、英語は世界の共通言語として果たす役割が極めて高く、また、中国語はグローバル化以前から華僑等を通じて世界に広がり、中国本土のみならず母語もしくは第二言語としての使用者数が極めて高い言語です。本学部に対する社会的ニーズを把握するために、企業インターネット調査（300社対象、300社回答）と採用実績のあ

る企業への郵送調査（120社対象、うち106社回答）を行いました。その調査において、「英語力を必要とする業務がある」との回答は回答者中96%であり、「中国語を必要とする業務がある」との回答は61%です。また、「採用したい人物像（能力・資質・人柄）」に関しては、「コミュニケーション能力が高い」は86%、「課題解決のための交渉力がある（negotiator）」は68%、「人・モノ・情報等の管理能力がある（administrator）」、「業務推進能力がある（facilitator）」はともに60%近い数値を示しています。このような数値からみて、卓越した外国語運用能力とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目標とする本学部は社会的ニーズに応える学部であると言えます。

また、「大学時報」（日本私立大学連盟発行）2009号掲載の「留学生に対する就職支援の現状と課題」に拠れば、「過去5年間にグローバル人材を採用したことのある企業」への「留学生に求める資質」に関する質問では、「コミュニケーション能力」が最も高く（理系69.2%、文系68.8%）、日本語の卓越した運用能力とコミュニケーション能力の育成を目指す日本語コースも社会的ニーズに十分応えるものです。

本学部の卒業生達が、グローバル化が加速する世界で、同志社人として活躍する日を夢見つつ、第一期生の入学を心待ちにしております。



女子大学薬学部に大学院開設

女子大学薬学部長 漆 谷 徹 郎

同志社女子大学は、新島襄の先駆的な女子教育への情熱に基づく女子塾を起源とし、キリスト教精神、リベラル・アーツ教育、国際主義を3本の柱とする教育研究活動を実践してきた。世間的な認知度は低いですが、新島は、同志社設立当時から医療人教育の必要性も痛感し、1887年には、同志社病院の開院、京都看病婦学校の開校とともに薬剤師養成にも着手している。不幸にして新島の早すぎる死によってこの計画は立ち消えとなったが、2005年の薬学部設置は同志社全体の悲願が具現化されたものといえる。

わが国の薬学は、薬剤師養成を主眼とする欧米の薬学とは異なり、創薬化学に重きが置かれてきた。しかし、医療環境の変化はこれを許さなかった。近年の医療現場にあつて、薬剤師は薬学という体系化された専門的学識を背景にして、「医薬品の適正使用の推進」という面で科学的に薬物療法を吟味し、その有効性と安全性を保障することが求められている。そのためには臨床薬学領域における研究者としての問題解決能力を薬剤師

は備えている必要がある。

医療現場からの要請を受ける形で、教育面でも遅ればせながら従来の創薬化学偏重を改め、臨床薬学教育を重視する路線へシフトすることになった。薬剤師養成教育の6年制課程への歴史の変革である。このような社会背景のもと、開祖新島の理念を具現化すべく本学薬学部が設置されたのは周知のとおりである。第1期生は4年制課程であったが、第2期生からはすべて6年制課程であり、2011年度はいよいよ6年制課程の学生が卒業する。ここで、本学に限らず、我が国の薬学部をもつ大学はすべて、新たな課題に直面している。それは大学院の設置である。

新6年制課程の上に立つ大学院に関しては、政府の諮問機関や文部科学省、薬学会が開催したワークショップなどで議論が重ねられてきた。ここでの共通認識は「薬学6年制は大学院まで完成して初めて真の完成を迎える」ということであつた。医療現場のような、高度最先端技術が即座に応用され、日常的に

研究すべき課題が発生し続ける場における専門家を養成するには、それ相應の研究教育体制が整っている必要があり、大学院なしに学部教育のみを充実させることは極めて困難である。その質の保証として「学生に研究指導し、博士として送り出す能力」がある。これは、我が国の6年制をとっている医・歯・獣医学部において、博士課程を設置していない大学は皆無であることを見ても明らかである。学術会議の答申にもあるように、薬学部が単なる国家試験の予備校と化してはならないのである。しかし薬学部新設ラッシュで薬剤師（少なくとも薬剤師国家試験受験生）の過剰が取りざたされている現在、一部の大学では学生の確保が困難であることを予想して大学院設置を見送るところもあるやに聞いている。これは明らかに危険な選択であろう。現在でもその兆しがみえている薬学部の二極化が、大学院のあるなしで加速する可能性が高い。もちろん本学はそんな選択を取るべきでない。

新しい大学院は、医歯薬獣医と同様に、4年間の博士課程である。しかしここで一つ複雑な問題がある。薬剤師受験資格のない4年制課程の学士、およびその上に立つ博士前期（2年・博士後期（3年）の課程も残っているため、それとの差別化が必要となってきたのである。この二重構造は、特に4年制・6年制を併設している大学で問題となるが、本学は6年制課程のみであるため、ある意味単純である。臨床薬学を見据え、それを支えるべく充実した基礎薬学、応用薬学の研究教育体制を構築すること、それに尽きる。

2009年度から本学では、企画部を中心に総務部、教務部、

経理部、そこに薬学部が加わった準備委員会を設立し、大学院設置計画をまとめ、2010年末には学内と同志社法人理事会の承認を得るまでに至っている。2011年春には設置申請を行い、9月までに認可が得られることを期待している。

現在までの構想は次のとおりである。同志社女子大学大学院は、医療薬学の一専攻であるが、A、B、Cのコース制をとる。具体的な内容は割愛するが、簡単にいえば、Aは基礎薬学、Bは応用薬学、Cは臨床薬学を中心とするコースである。博士論文指導教員はA・Cに属するので、学生は博士論文のテーマに従つてコースを決定することになる。6年制の学士は旧課程の学生より臨床経験・能力ははるかにまさるが、研究経験は旧課程の修士に劣るのは確かである。そこで、計画しているカリキュラムにおいては、コースの特徴を出しつつも1・2年次には他のコースの内容、すなわちいかなる領域にも応用が利く知識・技術も十分に習得してもらうような工夫をこらしている。

これからの薬剤師が臨床の場で力を発揮してもらうためには、現在臨床で活躍している薬剤師に指導的役割を果たしてもらう必要がある。それには、近い将来そのような立場になるべき薬剤師が一人でも多く大学院生となつて新課程の博士号を獲得してもらうことが望ましい。そこで、社会人大学院生の枠を設け、仕事をしながらキャリアアップを目指す意欲的な女性に対して門戸を開いている。

本大学院の設置が、本学薬学部卒業生に向けた更なる飛躍のために役立つ場となるばかりでなく、地域医療の一層の発展に資することを願ってやまない。

学び続ける原動力となる探究心・知的好奇心を育む理想の 教育環境をめざして ―「教科センター方式」による新しい中学校教育の創出

中学校・高等学校 副校長 竹山 幸男

2010年秋、同志社中学校は、新しいキャンパスにおいて従来の一般的な中学校の学習スタイルとは一線を画す教育環境を実現しました。私たちがめざしたのは、同志社の創立者・新島襄の「自由・自治・自立」の精神にもとづく、生徒一人ひとりを大切にした「参加型の学び」と「教科の専門的な学び」をよりいっそう強化した最新の学びの場の創出です。これまで今出川キャンパスにおいて充実していた、理科や実技教科の特別教室、図書館に加え、通常の「ホームルーム教室」を「教科専門教室」へ転換させ、〈すべての授業を教科専門教室で行う〉という「教科センター方式」という新たな教育のスタイルを導入し、実際の運用を始めています。

キャンパス構想や校舎建築構想の初期の段階から、校舎建築・校舎建築計画に非常に見識が深く、文部科学省の施設整備指針等の策定にもかかわらずこれら長澤悟東洋大学教授と出会うことによって、校舎建築が与える教育への影響の大きさとともに、新しい校舎建築によって生み出される教育の可能性について多くのことを学び、それらをこの事業に生かしてきました。

を教室内に恒常的に展示することができます。また、教科専門教室エリアに隣接して「メディアスペース（オープンスペース）」を設置し、それぞれの教科に関連した書籍・資料・掲示物などが置かれています。このスペースは、「教科ステーション（教科教員室）」とも隣接しているエリアもあり、授業におけるグループ学習や発表、休み時間や放課後などの補習や教科教員への質問、相談などにも利用されています。一方、「教科専門教室」には、文部科学省の補助金も受けた、プロジェクトと電子黒板、それに付随する機器類を完備させ、それらを活用することでより興味深くわかりやすい授業が展開できています。

「立志館」では、教科専門教室に対応する「ホームベース」が設置されています。この場所には、生徒の個人ロッカーも設置され、クラス活動にかかわる掲示などが行われています。朝食・終礼の時間およびクラス活動の時間は、各クラスのホームベースの前にある教科専門教室を用いて、日常のクラス活動や学園祭などのさまざまな活動を行っています。教科専門教室の廊下側には壁がなく、6枚扉を自由に開閉することによって、さまざまな活動形態に対応できるようなオープン性の特徴です。学年半ばの2学期からの新たなシステムの導入でしたが、生徒たちの適応力は非常に高く、ホームベースに設置された時計と校舎内9カ所に設置された電子情報掲示板を見ながら、「ノーチャイム」で学校生活を送っています。ホームベースの廊下側壁面は、在校生が今出川キャンパスをイメージしたモチーフが組み合わさってできた作品となっています。デザイナーの島津勝弘先生の指導の下、その取り組みがKBS京都でも紹介されました。

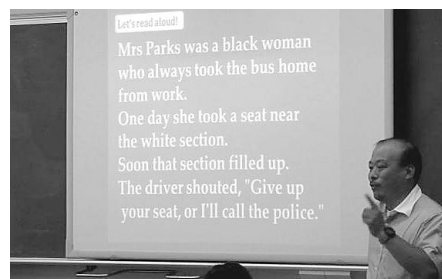
本校の特徴であった中学校理科における専門4分野毎の特別教室での授業や用具や設備の整った実技教科の学習の環境を、すべての教科において実現しようと、教職員で分担しつつ、全国各地の「教科センター方式」の先駆的な取り組みをしている実践校を訪問、見学をしてきました。個人的には海外の中等教育機関の校舎建築の見学の機会を持ち、教育環境創出のさまざまな可能性について模索してきました。このような見学の経験や教職員間での協議、検討を経て、中学校段階の校舎建築において「教科センター方式」の運用を前提とした校舎建築計画のコンセプトがまとめられました。

中学校のメインの校舎である「立志館」は、図書・メディアセンターを中心に、校舎全体が教科ごとのゾーンに分けられています。国語、社会、数学、英語などの教科専門教室がこの建物内にあり、別棟にある理科や実技教科の教科専門教室とあわせて、すべての授業を教科専門教室で行っています。生徒たちは毎時間、各教科の教室へ移動して授業に参加しています。「教科専門教室」では、教科の掲示資料やレポートなどの生徒作品

新キャンパスの精神的なシンボルとなるグレイス・チャペルは、キャンパス中央の宿志館にあります。コンペによって選ばれた設計者の香山壽夫先生は、東京大学の建築学科でも教鞭をとられた著名な建築家で、内外のキャンパスや校舎設計、劇場・ホールなども設計され、チャペル前のレリーフやステンドグラスにも、先生のキリスト教信仰（カトリック）が反映されたものとなっています。このような設計事務所の方々と長澤先生をはじめとする教育環境研究所の皆様のご協力があつて、建築のディテールにおいてもさまざまな工夫が凝らされたことを感謝しています。「教科センター方式」を中心とした校舎・施設の問い合わせなどは随時受け付けておりますので、本校までご連絡なくご連絡いただければ幸いです。（京都市営地下鉄「国際会館」駅前。JR京都駅より約20分、JR大阪駅より約60分）



メディアスペース（オープンスペース）



「電子黒板」を用いての授業

海外研修プログラムと長期留学規定

国際中学校・高等学校教諭
国際教育センター主任

塩見 賢司

「長期留学規程」による留学

国際中学校・高等学校では、目的に応じた様々な海外研修プログラムを準備しています。そのため、どの時期にどのようなプログラムに参加するのが最適なかを考えて決めるよう指導しています。選考をともなうプログラム参加者は前年度の秋に決定します。したがって、プログラム内容を事前に知る機会を十分に設け、生徒や保護者が計画的に参加を検討できるよう考慮しています。面接や成績審査などによる選考が行われるプログラムについては、事前対策として選考方法や選考基準をあらかじめ提示しています。

2006年度から「海外長期留学規程」による1年間の留学が可能になりました。例えば、高1の夏から1年間留学して翌年に帰国する場合、現地での出席状況が良好であれば高1を再履修しなくても高2に進級することができます。ただし、留学団体による語学選考試験や事前研修、行き先によっては予防接種やビザ申請などを含めて準備にはかなりの時間を要するため、

本校の国際教育センターでは、事前に十分なカウンセリングを受けるよう指導しています。

また、2008年度から「高校2年生First Semester留学規程」も新たに併設しました。高1入学後に留学準備を始めても間に合い、高2の1学期始業式から終業式までの約3カ月間留学するものです。

本学が主催する海外研修プログラム

◆ Summer Program in Amherst College

対象 高校1年生～3年生 定員 15人

このプログラムは本校生徒のみを対象に、新島襄が日本人として初めて海外で学位を得て卒業した母校アモスト・カレッジの歴史ある広大で美しいキャンパス内で午前中は英会話を中心とした授業を受けます。初心者であっても英語で何かを学びたいという興味のある方に適したプログラムです。また、ホームステイは原則的には一家庭に1人で配置されます。したがって、自立した生活を送れることが大切です。また、相手の会話を

内容がある程度は理解してホームステイ先で生活できるように努力することも必要です。午後や週末は、市内散策、近郊のミス・カレッジ見学（後述）、現地の高校生とのスポーツ交流、パーティー、ボランティア・ワーク体験、観光などを行います。

◆ The NUEVA School Summer Camp (Camp Galileo)

対象 中学1年生～3年生 定員 15人

“Camp Galileo”という現地の子供たちを対象としたサマーキャンプに参加します。サイエンス（実験中心）、アート（美術工芸）、アウトドア（野外活動）を行いますので、幅広いサマーキャンプを経験することができます。サマーキャンプ終了後にロサンゼルスへ移動してユニバーサルスタジオやディズニーランド観光も行います。ホームステイは原則2人以上で行いますので、英語に自信がなくても参加が可能です。

◆ The NUEVA School 交換プログラム

対象 中学2・3年生 定員 6人

アメリカ西海岸カリフォルニア州のサンフランシスコ郊外にある私立学校です。教育界では非常に名譽であるブルーリボン賞をアメリカ教育省から授与されています。情動教育の先進校としても有名です。また、6年生から8年生までが日本語履修を選択必修としているユニークな学校です。法人内の中学校、香里中学校、女子中学校の生徒と一緒に参加します。ホームステイをしながら学校の授業に参加する中学生対象の交換プログラムです。

◆ 青島第二中学校 交換プログラム

対象 中学3年生～高校2年生 定員 12人

中国山東省青島にある国立の高等学校です（学校の名称は「青島第二中学」ですが、中国語の「中学」は日本の「中学」と「高校」に相当します）。2008年度から交換プログラムを開始しています。山東省のトップ校で、多くの卒業生が毎年北京大学など中国の有名大学に進学し、アメリカのStanford大学やYale大学にも毎年10人ほどの生徒を送り出しています。アメリカ、イギリス、シンガポールとの交換プログラムを持っており、英語教育にも大変力を入れています。選択科目として日本語も開設され、多くの生徒が日本語を学んでいます。ほぼ全ての生徒が寮生活を送っており、留学生用の寮も完備されています。訪問する本校の生徒も最初のホームステイの後この寮で生活します。プログラム参加者は青島第二中学で約1週間過ごした後、杭州・蘇州・上海等の都市を見学し、全日程は約10日間となります。

◆ Ecole Active Bilingue Jeannine Mannel 交換プログラム

対象 中学3年生～高校2年生 定員 12人

フランスのパリにあるこの学校はフランス語と英語のバイリンガルで交流ができるインターナショナル・スクールであり、フランスの帰国生徒受け入れ校でもあります。アメリカのPhillips Academy Summer Session（後述）にも数多く参加し、卒業生の多くをアメリカのIVYリーグに送り出しています。約100カ国からの生徒が在籍しています。ホームステイをしながらそれぞれの授業に参加する中学生と高校生の共通する交換プログラムです。また、観光としてエッフェル塔、凱旋門、シャンゼリゼ通り、ルーヴル美術館、ヴェルサイユ宮殿、など

の各地を回ります。

◆Phillips Academy Andover Summer Session

対象 応募時高校1年生 定員 8人
アメリカ東海岸マサチューセッツ州のボストン郊外にある Phillips Academy Andover は全米トップの進学校です。卒業生の数多くを Ivy リーグなどの大学に送り出しています。1778年に創立され、同志社の創設者である新島襄が学んだことにより、同志社とは古くからの関係があります。世界各国から厳しい書類審査を合格し集まった参加者が寮生活をしながら授業に参加するプログラムです。本校が指定校として参加できる高校生対象のプログラムです。

◆Menlo School Program (2010年度スタートの新しいプログラム)

対象 高校1・2年生 定員 2人
アメリカのカリフォルニア州サンフランシスコ郊外の閑静な住宅街にあり、幼稚園から高校まである私立学校です。芸術やスポーツに秀でた生徒が多く在籍しており、The Nueva School (先述) からも毎年卒業生が進学する学校です。当校の生徒宅にホームステイをして学校に通うプログラムです。ESLクラス等は設置していないため、高い語学力が必要です。

■韓国基督教学校聯盟加盟校 交流プログラム 徹新中学・高等学校 (Kyun Shin)・東邦高等学校 (Dong Bang)

対象 中学2・3年生、高校1・2年生
「近くて遠い国と言われる韓国の伝統あるキリスト教学校との相互交流を始めます。体験授業(語学授業、伝統芸

てい&EXTENSION PROGRAMを本校用に開放をお願い、TOEFLに必要なスキルを向上させることを目的としたプログラムです。TOEFL指導に熟練した講師によるBT-TOEFL対策に焦点を当てていますが、ITPにも対応しています。1日4時間(合計約50時間)の集中強化トレーニングを行い、スコアアップを目的にしています。午後はUC Davis校の学生主催のアクティビティーに参加し、名門UC Davis校において充実したキャンパスライフを経験することができます。参加者はITPで500点以上が必要です。

■Harvard University Summer School (Secondary School Program)

対象 1月の時点で中学3年生から高校1年生に在籍する成績優秀者を選考

Secondary School Programは、その年の9月から10、11、12年生になる高校生を対象としたプログラムです。この他に社会人用や大学生用のプログラムも同時期に展開されています。授業は大学形式のかなり大きなサイズで行われており、全て Harvard Universityの先生が担当しています。TOEFLで250点(CBT)以上が要求されています。大学敷地内にある寮で生活をしながら授業に参加します。一般的なSummer Programとは異なり、このSecondary School Programは、午後にも授業を開講しながら大学レベルの授業を提供しています。最終日、単位認定の試験があり、合格するとHarvard大学本科を初め、多くの大学の単位として認定されます。

能授業を中心)、小旅行を通して相互理解を目指します。2校共すでにカナダ(ミッション本部)、中国との交流プログラムを持ち、日本の大学進学、日本からの帰国生受け入れなどを積極的にに行い、日本語クラスを設置しています。韓国語を勉強している生徒に特に推奨しますが、語学力は問いません。(宗教センター)

■Smith College Science & Engineering Program

対象 高校1年生または高校2年生の若干名を選考
9月から9、10、11、12年生になる女子生徒を対象としたプログラムです。授業は6人から10人程度の小さなサイズで行われており、授業は全てSmith Collegeの先生が担当しています。大学敷地内にある寮で生活をしながら授業に参加します。高校ではAdvanced Science Courseをとっている必要はありませんが、成績優秀者で高いモチベーションを持っていることが要求されています。授業は複数展開されており、初級レベルから、大学院の研究レベルまで揃えられています。プログラム最終日のプレゼンテーションは教授・生徒だけでなく保護者の参加も許可されています。ESLクラスは設置していないため、高い語学力が必要です。

■TOEFL Preparation Program

対象 本校の高校1年生・高校3年生 定員 2グループ合計30人

The University of California, Davisに依頼し、この大学が行っ

■アラバマ州の高校生交流プログラム

対象 本校の高校1年生・高校3年生。定員 なし
受入期間…7月(1日限り)
アメリカのアラバマ州にある複数の高校から生徒を招いて食事会や座談会を持つ高校生の交流プログラムです。

